

仕合わせの



第211号

令和元年. 10. 1
(毎月1日発行)

日蓮大聖人

ご降誕の意義

住職 谷川寛俊

令和三年には、日蓮大聖人がご降誕（こうたんニ誕生）されて八〇〇年の記念すべき年を迎えます。このご降誕の節目が、なぜ大切であり、私達にとつて尊くありがたいものなのか考えてみましょう。法華経の如来寿命品第十六「お自我偈」の少し手前に「良医治子（りよういじし）」という喩え話があります。この喩え話にこそ、ご降誕の意義が説かれています。昔々ある所に、医者である父と多くの子供達が暮らしていました。父が外へ診察に行っている間に子供達は誤って毒薬を飲み悶え苦しみます。父が帰ると子ども達は助けを求め、父は全てに効く良い薬を調合します。そして「この薬を飲めば必ず良くなる」との言葉を信じ、薬を飲んだ子供達は救われますが、信じない子供達は毒におかされて飲

むことをしません。そこで、何とか助けたい父は「ここに薬を置いておくから信じて飲みなさい」と言い残して、また遠くの診察に出掛けてしまいます。数日経って家に使者を遣わして「お前達のお父さんは事故で死んでしまったよ」と、方便をつかって知らせると、薬を飲まなかった子供達は「もう誰も自分達を救ってくれる人がいない」事に気付き、父の残した薬を飲み、全ての子供達が助かりました。しばらくして父も帰ってきて、「良かったね」と仲良く暮らすという喩え話です。

この話の良医の父こそが、お釈迦様であり、多くの子供達は、私達衆生（しゅじようニ人間）で、毒薬が五欲（物欲・名譽欲・権力欲・食欲・性欲）と財欲（お金）を指します。久遠の昔からお釈迦様が法華経の教えを説いておられるのに、その大事な事を忘れて毒薬である欲望に溺れ、生死を繰り返し苦しみ続けているのが私達です。家に帰ってきた良医の父とは、その私達を助けんが為に、三千年前の四月八日にこの苦しみの

真成寺ホームページ

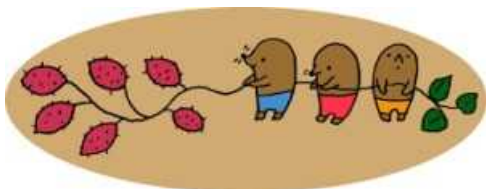
<https://bit.ly/2Gz55Mz>

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523
こちらの番号でも
お寺につながります。

世界に御誕生なされたお釈迦様です。飲んだ子供達は、法華経寿命品を聴聞した永遠の救済を信じた人達です。薬を飲まなかった子は、その時法華経を信じない人々や、お釈迦様が入滅された後の多くの人々なのです。では、遺された人々を誰が救って下さるのでしょうか？そこで良医の父は、家に使者を遣わします。この遣いこそがお釈迦様から遣わされた一番弟子の上行菩薩（じようぎようばさつ）であり、二月十六日安房国（千葉県）の小湊でご誕生なされた日蓮大聖人その人なのです。そして子供達が飲んだ薬こそが大良薬である「お題目・南無妙法蓮華経」なのです。日蓮大聖人は、他宗派の祖師とは違い、法華経に説かれているお釈迦様の使いとして私達のために苦しみの多い末法の時代（現代）に出現し、お釈迦様の真実の教えであり、数多くお説きになった最後の結論とされたのです。



「法華経」その全体が含まれている良薬「南無妙法蓮華経」を身命を顧（かえり）みず弘められたのです。三年後にお迎えする、ご降誕八〇〇年に向けて、自らの信仰をもう一度確かめる機会にしたいものです。